

平成27年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（小学校：算数）

1 結果のポイント

○全問題数：38問（知識31問，活用7問）

- ・29問が目標値を上回っている。
- ・15問が県の正答率を上回っている。
- ・活用型の問題7問中2問が目標値に届いていない。
- ・図形の性質を使って説明する問題に課題がある。

○領域別，観点別結果

- ・領域別では「図形」が目標値に達していない。
- ・観点別では，すべての項目において目標値を上回っている。
- ・編差値は領域・観点ともすべての項目で50を上回っている。

○総合質問紙調査 i-check（肯定的な回答の割合）

- ・算数の勉強はどれくらい好きですか。 61.3%（県65.3%）
- ・算数の授業はどれくらいわかっていますか。 82.9%（県82.6%）

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

（1）数と計算

①（4）小数第一位+整数の計算ができる。（正答率67.6%・目標値70.0%・短答）【知識】

- ・26.5%の児童が位をそろえずに計算している。

小数の位取りも，整数と同じ原理・手順でできるということを確認し，筆算で計算させ理解を深めさせる。整数同士を足して答えの見通しを持たせることも大切である。

（2）数と計算

①（9）小数第一位×整数の計算ができる。（正答率70.1%・目標値80.0%・短答）【知識】

- ・かけ算九九を確実に身に付けさせる。特に，まちがしやすい九九（ 7×4 や 8×6 など）については正しく覚えることができているのか確認し，確実に計算ができるようにする。小数点の付け忘れがないようくり返し練習させる。

（3）数と計算

②（1）億と兆 命数法で書かれた数を記数法で表わすことができる。

（正答率78.9%・目標値80.0%・選択）【知識】

- ・数え棒や位取り板といった具体物を使い位取りの意味を理解させる。空位があるときの記数法での表し方をくり返し練習させ定着させる。

(4) 数と計算

9 四則の混じった式の計算順序を理解している。

(正答率 66.2%・目標値 70.0%・選択)【知識】

- ・ 類型の 1 が 15.2%，類型の 4 が 9.8%と回答にばらつきがみられることから計算順序を正しく理解できていない子どもが多いことがわかる。昨年度も目標値に届いていない問題なので時間をかけて復習していく必要がある。

(5) 数と計算

10 分配法則を理解している。(正答率 37.3%・目標値 40.0%・選択)【知識】

- ・ かっこを開く方法を正しく理解できていない。かっこを開いて計算するほうが速くて便利な場合があることを味あわせ、正確に計算できるようにする。

(6) 図形

14 四角形の定義や特徴を理解している。(正答率 55.9%・目標値 60.0%・短答)【知識】

- ・ 辺の長さや角の大きさなど、図形の構成要素やその関係に着目して観察させることが必要である。観察の結果からわかったことを他の図形と比較し、その特徴を明らかにさせていく。

(7) 図形

18 ひし形の性質を理解している。(正答率 18.1%・目標値 30.0%・記述)【活用】

- ・ 大問14の留意事項に加え、作図の指導においては図形の約束や特徴と対応させて理解できるようにすることが大切である。

また、24.0%の児童が、ひし形の他の特徴を書いている。向かい合った辺が平行な四角形について考えさせ、ひし形ではない場合もあることを理解させる。

(8) 数量関係

19 二次元表の読み方を理解している。(正答率 69.1%・目標値 70.0%・記述)【活用】

- ・ 昨年度、大きく目標値を下回っていた問題(正答率 53.4%・目標値 65.0%)である。二次元ではなくどちらか片方のみで答えている児童が 22%，また無回答の児童が 8.8%おり、二次元表の意味理解に課題がある。空欄の数をどのように見付けていったのかを筋道を立てて説明することで論理的な思考力を身につけさせる。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

（1）問題解決的な学習（算数的活動）の充実

- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視し、既習の知識や技能、考え方を活用し、問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるような場面を設定する。

例えば

- ・図や表を観察して、問題解決に必要な情報を選択したり読み取ったりする
- ・場面の状況や操作の意味に基づいて、式を的確に読み取る

等の授業を「全国学力調査問題」「授業アイデア例」を活用し実施する。

- 言葉・数・式・図・表・グラフなどを用い、自分の考えたことを表現したり、友だちに説明したりする活動を重視する。
- 算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気付く場面を設定する。

（2）ねらいを達成するための言語活動の充実

- 「授業のねらい」「言語活動」「評価」の内容を一致させ、児童の考えたことや表現したことが「授業のねらい」とつながるようにする。
- 「数量や図形，数量関係を考察して見いだした事実を確認したり説明したりする」「問題を解決するために見通しをもち，筋道を立てて考え，その考え方や解決方法を説明する」「論理的に考えを進めてそれを説明したり，判断や考えの正しさを説明したりする」等の場面を設定する。

（3）見通しを立てたり，振り返ったりする活動の工夫

- 結果や解決の方法等を予想させ，課題を共有させる（やるべきことの見通しを立てる）。
- 学習したことをまとめたり整理したりする場面を設定する。
- 適応問題や評価問題に取り組みさせ理解や定着状況を確認する場面を設定する。

（4）数学的な用語を使った表現力の育成

- 用語を教えるだけでなく，考えさせる場面を設定する。
- 用語を使い説明する場面を設定する。

（5）その他

- 優れた実践を広げる。
- 家庭での学習習慣を身に付ける適切な指導を行う。